

経営者のための人財育成通信

vol.9

人財開発支援助成金の申請と支給には各種要件があります。詳しくは京都労働局助成金センター（075・241・3269）に お問い合わせください。



※人材を財産と捉える意図により、「人財」と表記しています。

前号の記事はこちら



今回は前号で紹介した人材開発支援助成金を活用し、「京商ビジネススクール」を利用されている会員企業を紹介します。

社内と外部研修を
組み合わせて
人材育成を
行っています。

大和電設工業株式会社
システム技術部 技術1課
森嶋 七海さん

充実した研修で、
スキルアップ
できています。

大和電設工業株式会社 総務部係長
土肥 遥さん



Q 貴社の人材育成における課題について教えてください。

土肥係長 当社は、「IT」「電話」「電気」の3部門のスペシャリストとして、企業や公共施設を対象に情報通信設備の導入・保守を行っています。全従業員110名の約6割は技術職ですが、営業職にも幅広い専門知識が求められるため、社内研修を通じて資格取得を奨励しています。しかし、内容が多岐にわたる新入社員研修は、社内での対応に限界がありました。

Q 具体的にどのような取り組みをされていますか。

土肥係長 新入社員には、早期に戦力として活躍できるように、業界団体が主催する約1カ月の研修で、専門知識を習得してもらいます。また、自律型人材になるための考え方や行動、「報連相」等仕事の基本は、毎年、「京商ビジネススクール」の「新入社員研修」や「社会人基礎力養成セミナー」で学ばせています。外部研修は費用負担が伴うため、積極的に人材開発支援助成金を活用しています。

Q 実際に助成金申請をされたようにお感じになりましたか。

土肥係長 申請にあたっては、「能力開発計画書」を作成し、認定後に、具体的な「訓練計画」を作成して労働局に提出します。提出書類は書式が複雑だったり評価項目の考え方が現場と違ったりと、書きづらいう点も多くあるため、助成金センターの担当者に直接相談しています。手間はかかりますが、OJTの補助額を含めるとOFF・JITの研修費用がほぼ全額賄えるため、大変助かります。

Q 「京商ビジネススクール」を受講された感想を教えてください。

森嶋さん 女性技術者は少ないですが、ロールモデルになる先輩がいたことや、インターンシップでの体験が入社の決め手になりました。業界の知識や技術は、研修が充実しているので、文系出身の私でも着実に習得することができています。一方、「京商ビジネススクール」では、他社のメンバーと課題に取り組みさまざまな考え方に触れとても刺激を受けました。また入社6カ月フォローアップコースでは、改めて自身を見直す良い機会になり、目標設定に活かしています。

今回は

新入社員のメンタルケア
をご紹介します。

京都商工会議所では人材育成に関するご相談や各社の経営課題に寄り添った研修プランのご提案を行っております。ぜひご利用ください。

【お問い合わせ】 会員部 研修事業課（京商ビジネススクール事務局）

☎ 075-341-9762 ✉ jinzai@kyo.or.jp <https://www.kyo.or.jp/jinzai/>

